

LINE

災害時のLINE活用

LINE株式会社 執行役員 公共政策室室長 江口清貴

HISTORY

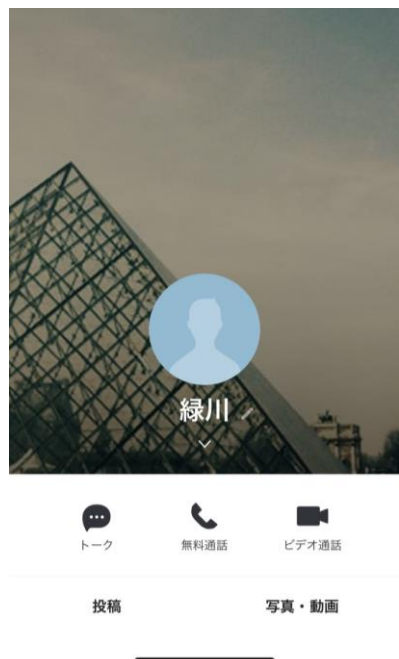
ホットラインとして作られたLINE



一災害時に便利なLINE機能のご紹介一

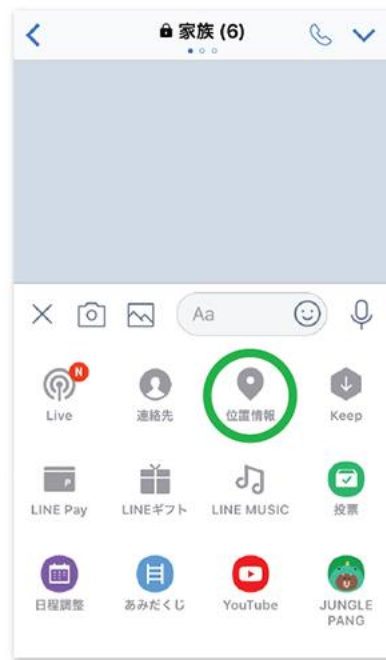
ビデオ通話、音声通話

1:1メッセージ・写真の送受信やグループトーク、ビデオ通話や音声通話の機能が利用可能。



位置情報共有

トーク相手と位置情報や集合場所など、住所・地図を共有することが可能。



－災害時に便利なLINE機能のご紹介－

LINE上の友達全員に自分の状況を知らせる 「ステータスメッセージ」

「友だち」ページで自分の名前の横に表示されるため、
LINEで友だちになっている人全員に今の自分の状況をみんなに知らせることが可能。



ー災害時に便利なLINE機能のご紹介ー

災害時に安否確認ができる「LINE災害連絡サービス」

大規模災害が発生した際に表示されるLINEのメッセージから、自分の状況をタイムラインで知らせることが可能。



実際の災害現場での活用（2016年熊本地震）

- 災害の現場で利用されたLINE活用方法
- 熊本地震でのデータのご紹介

熊本地震の際の活用例

被災地職員のスマートフォンによる情報連絡の例

市役所内の状況や被災地の状況をリアルタイムに共有。特に、浸水などの被害状況や大量の物資が届いて整理がつかない混乱の状況などは、写真を使う事で、臨場感を含めて共有する事が出来ている。

福岡市から熊本市へ派遣された職員によるグループでは、被災所に不足している食料などの物資をリアルタイムに共有する事で、過不足を現場で吸収し、物資供給に役立てた。



熊本地震発生時のLINEを利用した情報連携

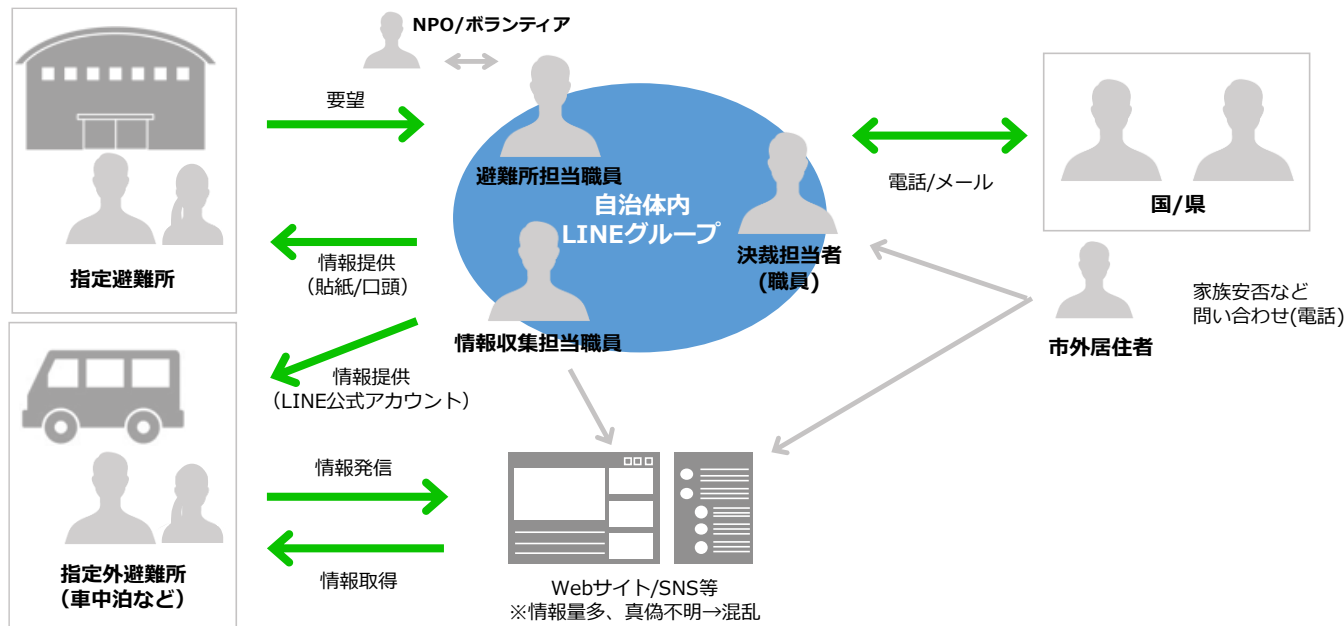
自治体職員間での利用

職員同士が自然発生的にLINEグループを作成し、リアルタイムな情報連携のためにLINEを活用。

- LINEは地震発生直後の情報交換に多用され、**職員同士の安否確認や道路の被害情報、避難所の情報**などの現状の情報共有として利用。
- LINEが重宝されたのは、既読機能・他の作業をしながら利用できること。
普段から利用している機能を中心に活用。

大学生ボランティア間での利用

- 学生たちはボランティア本部のLINEグループだけでなく、**物資班グループやトイレ班グループ**等各役割に応じたグループを作成し活用。



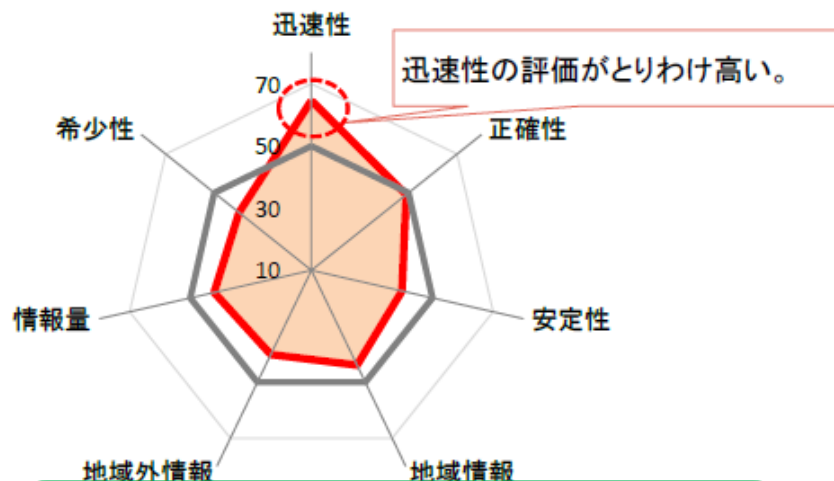
災害時の情報活用

各ICTメディアの位置付け・特徴

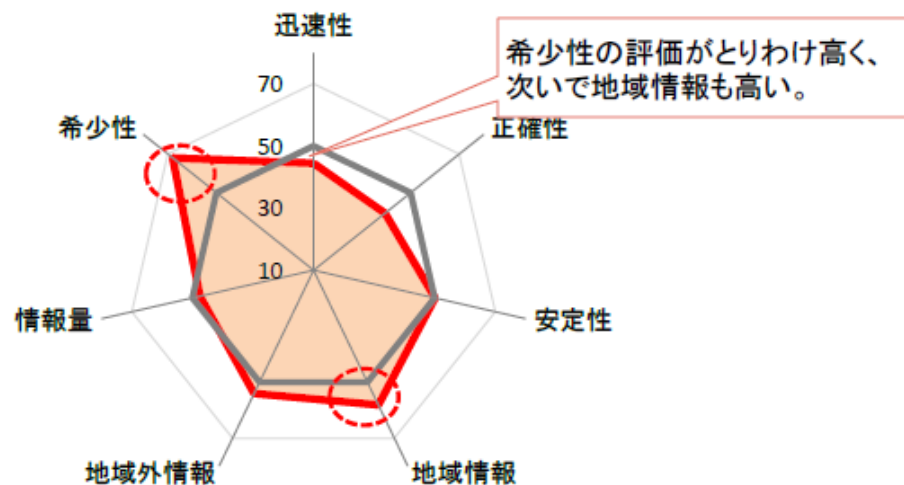
分析結果

(アンケートより集計)

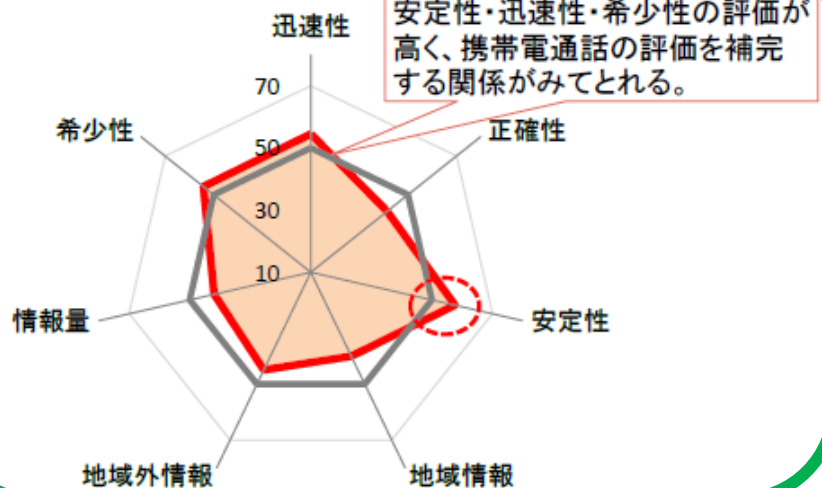
■エリア・緊急速報メール(n=117)



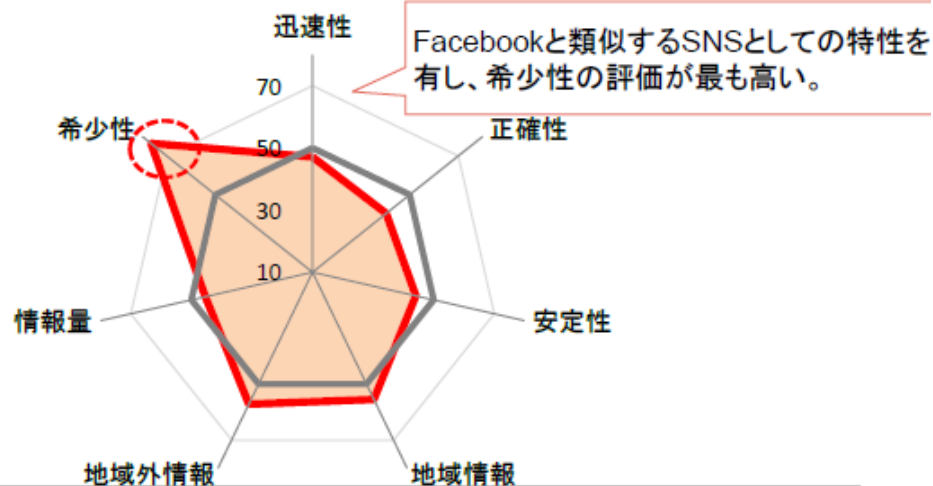
■Facebook (家族・友人・知人等)(n=38)



■LINE (家族・友人・知人等)(n=278)



■Twitter (家族・友人・知人等)(n=22)



LINEと公共機関の連携による取り組み例

熊本市と「情報活用に関する連携協定」を締結 (2017年4月12日)



情報活用に関する連携協定の締結

1. 地域防災への「LINE」等の活用に関すること

- ・「LINE」の機能を使った地域住民との防災情報の受配信
- ・地域社会での防災訓練と訓練を通じた防災にかかる共同研究
- ・地域住民への意識向上施策
- ・災害時における職員間の安否確認ツール、災害対応時の情報共有ツールとしての活用

2. 地域振興への「LINE」等の活用に関すること

- ・地域との「LINE」でのつながりの検討
(地域情報の受発信など)
- ・熊本市地域担当職員の職員間の情報共有ツールとしての活用

3. 市政情報の発信・収集での「LINE」等の活用に関すること

- ・福祉など分野ごとの市政情報発信のツールとして活用
- ・地域住民に対するアンケートシステムの構築など



熊本市でLINEを活用した防災訓練を実施 (2017年4月14日・16日)

LINEを活用した防災訓練

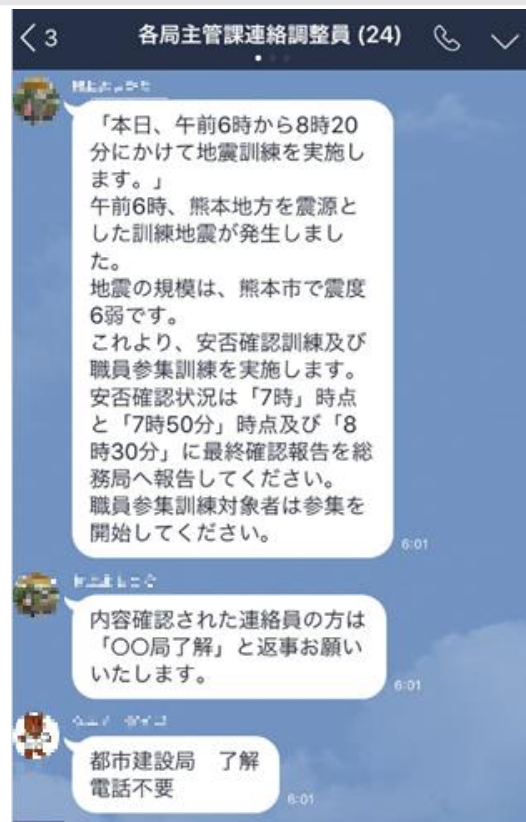
2018年4月にはLINEを活用した以下の訓練を実施

- ・職員安否確認訓練
各局、課で迅速性や正確性に有効性があるSNS(LINE)を可能な限り活用した緊急連絡網を整備し訓練を実施。
- ・情報収集・伝達訓練
LINE社と協力して、LINEを活用した区対策部と避難所間の情報伝達訓練を中央区対策部と中央区で開設された避難所で実施。

H29・30年度大規模災害を想定した職員安否確認・参集訓練結果比較

年度	実施日	実施時間			安否情報			参集情報		
					参加対象人員	確認	確認率	参加対象人員	確認	確認率
29年度	H29年4月14日 (金)	6時00分	開始後1時間00分	7:00時点	8,723	7,589	87.00%	569	444	78.03%
			開始後1時間50分	7:50時点	8,723	8,721	99.98%	569	564	99.12%
			開始後2時間30分	8:30時点	8,723	8,721	99.98%	569	564	99.12%
30年度	H30年4月15日 (日)	9時00分	開始後1時間00分	10:00時点	10,042	8,628	85.90%	333	332	99.70%
			開始後1時間50分	10:50時点	10,042	10,041	99.99%	333	332	99.70%
			開始後2時間30分	11:30時点	10,042	10,041	99.99%	333	332	99.70%

※H29年度 安否確認は原則全職員とするが、消防職、医療職等は除く

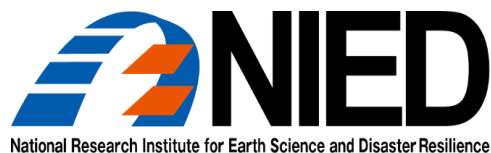


熊本市「【報道資料】平成30年度震災対処実動訓練の実施結果について」

https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=19104&class_set_id=3&class_id=535

防災・減災に関する今後の取組について

防災科学技術研究所と「インターネット・AI技術を活用した防災・減災に向けた連携協力に関する協定」を締結 (2018年9月26日)



情報活用に関する連携協定の締結

連携する項目

- 1) インターネット・A I 技術を活用した防災・減災の推進
- 2) インターネット・A I 技術を活用した防災・減災の共同研究
- 3) インターネット・A I 技術を活用した防災・減災に係る訓練の企画・協力・実施
- 4) インターネット・A I 技術を活用した防災・減災に係る地域社会への貢献
- 5) インターネット・A I 技術を活用した防災・減災に係る国内外の企業・団体等との連携推進
- 6) その他両者が必要と認める事項

情報収集・表示に関するツール開発

LINEの防災向けアカウントから得られた情報を防災科学技術研究所の有する府省庁連携防災情報共有システム(SIP4D)にリアルタイムに反映させることにより、府省庁が発災後、早期に情報を収集・把握できるようにする

SIP4Dで相互につながる各種災害情報システム

被災者



- テキスト
- 画像
- 動画
- 位置情報 など



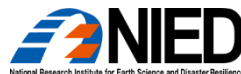
LINEの防災向け
AIチャットボットアカウント

- 災害状況情報
- 支援情報

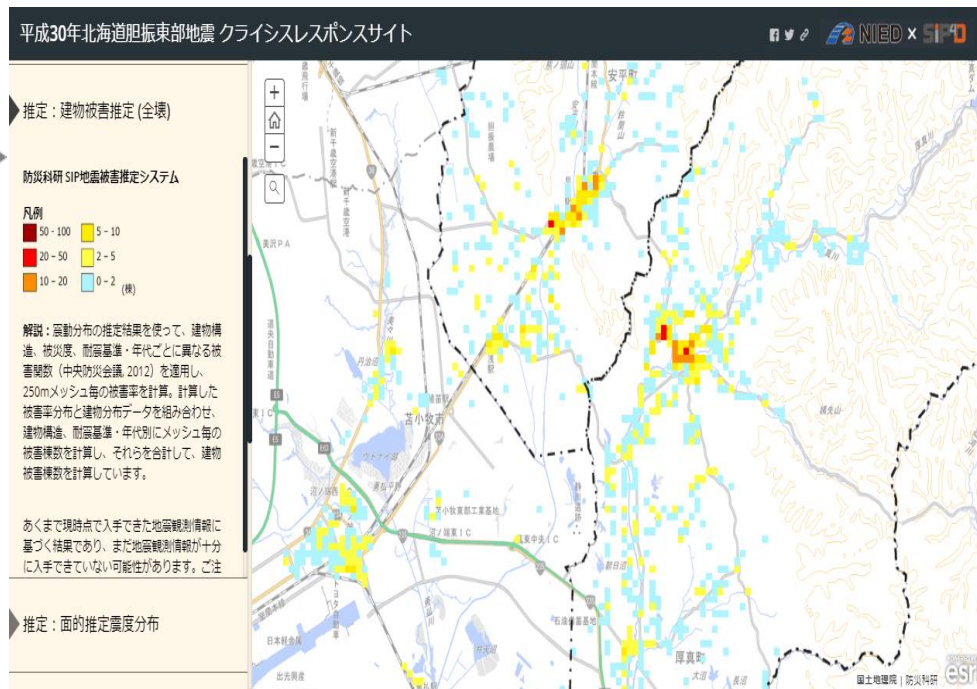
Twitter
などのSNS



D-SUMM
DISAANA



府省庁連携防災情報共有システム(SIP4D)

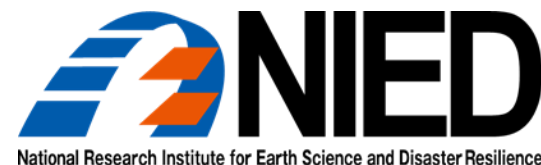
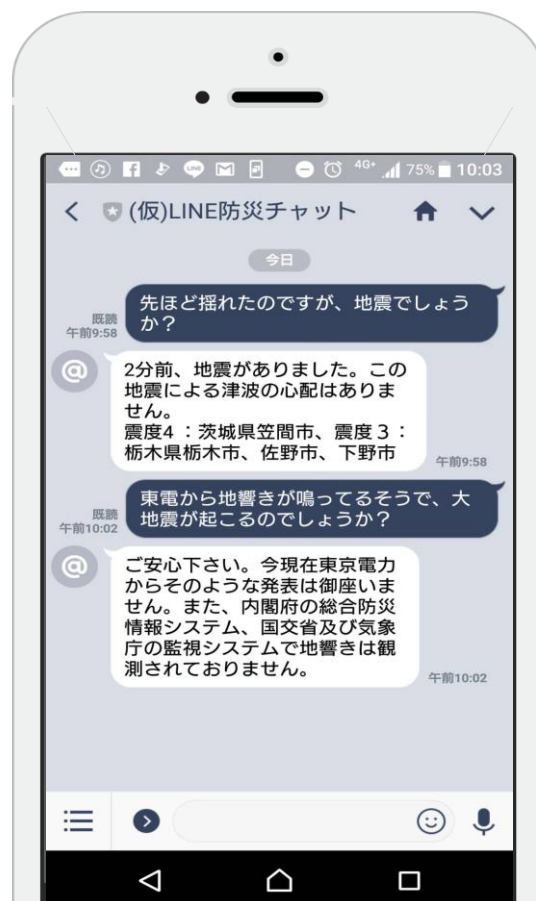
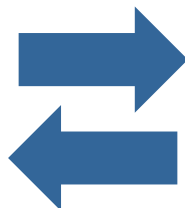


チャットボットを活用した正確な情報提供

LINEのチャットボットを通じて、情報を問い合わせることにより、情報の正確性の確認や、被災地の方が必要としている情報の提供を受けることができるようにする
また水害に関しては、ハザードマップの情報や、避難勧告などの情報を予め収集しておくことで住民からの問い合わせに対して、逃げることを推奨することが可能になる



被災者



府省庁連携防災
情報共有システム
(SIP4D)

Thank you.